

園長通信

(令和8年度9月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長 岡部 祐輝

【夏の学びを2学期の保育へ・・・】

まだまだ残暑厳しい毎日ですが9月になりました。9月も近年はかなり気温が高い日が続いており、「夏」という認識で考える必要があります。運動会の活動や園庭での遊びなど、熱中症対策を引き続き行いながら進めていきたいと思います。私はこの夏に、研修会・学会の参加・受講、そして自分が講師として当園や他園の研修、養成校学生の授業を行う中で、インプットとアウトプットする機会に恵まれました。

特に養成校の学生の皆さんには、「なぜ私が教師をめざしたのか」、「子どもたちにどのような成長を願うのか」、「これからの未来を支える皆さんへのメッセージ」などをお話を授業の最後にさせていただきました。本当に真剣に、そして自分事として聞く姿に、こちらこそみ上げてくるものがありました。次の世代の「先生たち」、そしてさらにその先の未来を担う子どもたちに、改めて「希望」を感じる時間となりました。

今回その学びや私がお話させていただいたことをいくつか記載したいと思います。

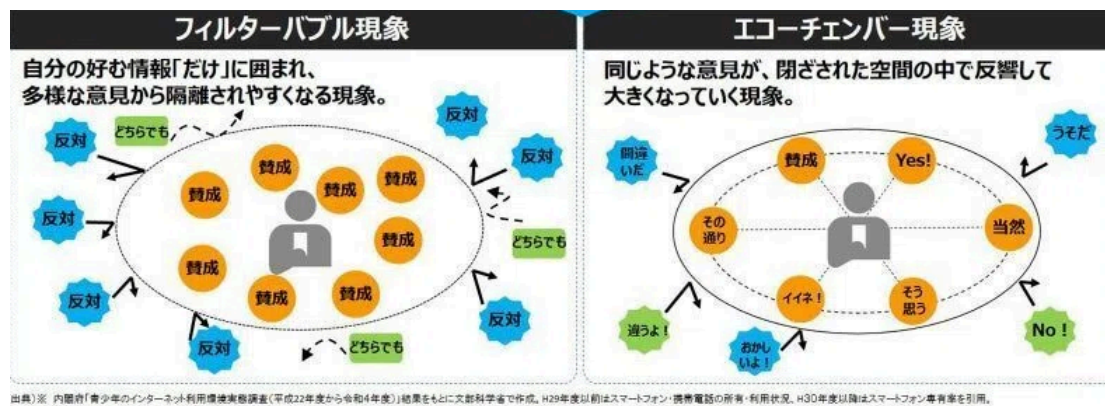
●共に過ごし、共に考える

今夏の研修会で、「AIとヒト」について学ぶ機会が多くありました。特に幼児期における「**アナログの経験（直接・具体の体験）の重要性**」や、「**感情の動きを伴った学び**」の重要性が挙げられていました。近年は、質問があればAIにプロンプトを入れると、「それは～ですね」とそれらしい回答がタイムリーに返ってくる時代です。この行為の中に、例えば、「緊張しながらも質問した」、「これはすごい発見だ！と心を躍らせて会話した」などのことが、どれほどあるかと考えます。ヒトは本来一人で生きていける機能を持ち合わせていないことがこれまでも言われています。その中で、**他の誰かとともにいること、共に感じること、共に喜び合うこと、そして承認されることなどがヒトの感情を大きく育んでいきます。**

2学期に入ると、「クラス」や「集団」で何かしようとする機会が増えます。その中で学年にもよりますが、「みんなの中にいる私」、「みんなと一緒にすることの楽しさ」などを感じられる場面を多く経験してもらいたいと思います。みんなと一緒に大きな声で笑う！・・・これもとても大切なことです。

●社会・集団の中で生きる

「**他者と協働する**」ことは保育の世界でも大変重要なことです。（保育の場合は「協同」の字を使うことが多いです）保育はチームで連携協働する中で、多様な大人が子どもたちに関わり、様々な考え方、価値観、行動に触れるものと考えます。その中では当然、自分と他者は同じ感覚、感じ方ではないことが多くあります。しかし、これらの感覚は、同じ時間をとともにすることが多いコミュニティや価値観が近い方どうしが集まる場合、考えの偏りが生じてしまうことがあります。



例えばネットショッピングなどでは、過去の購入、閲覧履歴から、自分が好みかなと思う商品が選択肢に上がりやすくなり、SNSなどではよく見る記事のジャンルの近いものがどんどん情報として届くことなどがあると思います。

フィルターバブル・エコーチェンバーのように、自分の好む情報だけに囲まれ、その中で意見などが反響して大きくなっていくことにより、自分たちの中で「当たり前」、「普通」が形成され、それ以外の物に対して、「異質」、「おかしい」、「通常ではない」という反応を引き起こすことがあります。

これはわたしたち教師・保育者にも言えることです。教師・保育者のあたりまえはもしかすると他業種のあたりまえとは違うかもしれない。その前提に立って、他からの見え方・考え方に思いをはせていくこともとても重要です。

ゆえに私たちは研修においても他職種の研修を受けることがあります。(私も直近では航空関係のリスク管理・チームづくりやスポーツのチーム作りの話が参考になりました) このように、**価値観を固定化しないことは大人も子どもも続けることが大切です。**

●「ごめんね」が「ありがとう」に変わること

コミュニケーションについても学びと、研修で受講者にお伝えをしました。その中で「視点を変えるだけで言葉の印象や伝えたいことが変わること」を取り上げました。

(例)

A:「寒い中、待たせてしまってごめんね」

B:「寒い中なのに、ずっと待っていてくれてありがとう」

上記はおそらく同じことを指していると思います。しかし、Aは「ごめんね」、Bは「ありがとう」の文脈で伝えています。もちろん人や場面により「謝罪が欲しい」場合と、「感謝が欲しい」場合とあるかもしれませんが、受け手に対して発信者は少しの言葉の違いで印象を大きく変えてしまうことがあると考えています。

これは大人の世界だけではなく、子どもに対しても意識が必要なことと考えていますし、保育者の専門性の一つである、「言葉がけ」の範囲と言えます。子どもが行う全ての行為・活動に対して「ありがとう」ではないですが、子どもが前向きにとらえるようにと、「ありがとう」を使うことは教育・保育の場面では様々な学校園で見受けられます。

子どもへの言葉がけをより丁寧に行うためには、例えば「掃除してくれてありがとう」ではなく、「お部屋を掃除したらきれいになって気持ちがいいね」など、**フラットな関係性で伝え合える感想の延長のようなことも大切**と考えます。

2学期も職員一同、夏に得た学びを踏まえ、さらに質の高い保育を行うことができるようにしたいと思います。